

健康
セミナー
30

人工膝関節
と
人工股関節

西能病院整形外科
市村 和 徳



実際に用いる人工関節の写真です。左側が人工膝関節、右側が人工股関節です。いたんだ骨を削り、このような関節をはめ込みます。

人工関節置換術とは、骨・軟骨が変形したために痛みが起こっている関節を、人工物で造られた関節に置き換えて痛みを取り除き、関節の機能を温存する手術です。今回は特に膝関節と股関節について紹介します。使用される人工関節の多くはチタン合金による金属部分と超高分子ポリエチレンと呼ばれるプラスチック部分からできています。関節の機能を保つためには、術後に充分なりハビリが必要です。

●人工関節置換術を行う病気
「関節リウマチ」や、関節軟骨の老化・磨耗によって起こる「変

形性関節症」などでは、痛みがあり、伸びない・曲がらないなど関節の動きが制限され、日常生活に支障があったり、歩行、やりたい姿勢がとれないなどの症状が現れます。これらの慢性的な炎症により関節のはれや変形をきたしている場合、人工関節置換術は、効果的な治療方法です。痛みがなくなり、関節の動きが改善されます。

●人工関節の弱点
感染に弱い：感染には十分に注意します。消毒を徹底し、手術は清潔な部屋でおこないます。実際感染したときには抗生物質治療を行います。場合によっては人工関節を入れ替える必要があります。耐久年数がある：人工関節は、大事に使用すれば10年から20年は使えますが、擦り減ったり、ゆるんだりすると痛みが起こり、機能にも障害が生じてきます。定期的に診察を受け、擦り減ってくれば、部分的に取り替えることもできます。生活上の注意点については術後のリハビリで学んでください。歩き過ぎなければ、ハイキングやゴルフもできますが、ジャンプなどを伴う衝撃の大きい運動はできません。

動きに制限：人工股関節は、脱臼しやすいので、手術後のリハビリで、やってはいけない動作を学ぶ

白くみえるいたんだ骨を削り、人工股関節を入れました



人工股関節

種血輸血」があります。
感染：清潔な手術室「クリーンルーム」を使用し、術後は感染予防のために抗生物質を使用します。静脈血栓：血管に血液の塊ができ、内臓に詰まることがあります。手術後早期より足の運動を行い、血栓ができにくいように薬を投与します。

●人工関節置換術の入院経過
検査：手術前日か2日前に入院し、各種の検査や、レントゲンで人工関節の大きさを測るなど手術の準備をします。
手術：全身麻酔で行います。術後しばらくは痛みが残るので鎮痛剤を使用します。
術後1日目：痛みが強くなければ車イスに移動します。

術後2日目：手術部にたまった血液を外に出すドレーン（管）を抜き、リハビリを開始、関節を動かす訓練をします。
手術後3～5日：歩行訓練を開始し、以後はそれぞれの方の状態に合わせてリハビリを行います。
その後、自宅へ帰る自信がつけば退院していただきます。入院期間は個人差がありますが、おおよそ1カ月となります。

人工関節置換術はいまや整形外科の一般的な手術となっています。いろいろな研究により、耐久性のよいものも出てきています。関節の変形による痛みで悩んでおられる方は、医師にご相談ください。
（2007年6月14日西能病院「健康教室」の講演を編集しました）

必要があります。正座もできませんが、コツがあるのでトレーニングを受けてください。膝関節では、90度から120度の曲げが限界で、それ以上曲げると人工関節が痛みやすく、正座はできません。
手術後は、イス、ベッド、腰掛式トイレなど、洋式の生活のほう

が関節に負担がかからず、好ましいといえます。

●手術に伴う合併症と対策
貧血：手術時の出血に対しては、必要に応じて輸血を行います。輸血の方法は、3～4週間内に400～800mlの自分の血液をあらかじめ保存しておく「自己血輸血」と、血液センターの血液を利用する「同

変形性膝関節症



骨の表面を削り、人工膝関節をはめ込みました